

KEY WORDS

中古・リサイクル市場の現状

以前は、中古品、あるいはリサイクル品は、安かろう・悪かろうというイメージがあった。しかし、現在では、フリーマーケットに多くの人が集まり、かつ、売買されるものの品質が上がってきている。さらには、質屋が買取・販売を行ったり、中古ブランド品の買取・販売を行う専門店が多く登場し、繁盛している。これは、不況下でも一般の家庭に大量の使わない物があること、そして、そういう不要在庫がお金に変わること気づいた多くの人、それら売る行動を取るようになったことの現れだといえる。経済産業省の商業統計によれば、平成 14 年の中古小売店等の年間売上高は、3兆 5,300 億円にも達する。

最近の金利上昇

今まで日本の金利は、いわゆる『ゼロ金利政策』の影響で低く抑えられてきた。一時は、十年物国債の利回りが 0.43% と、史上最低の金利がつけられた。しかし、今年になってこの利回りが一時 1.905% をつけるなど、急上昇してきている。金利が上がるのは景気が回復してきた証拠であると言われるが、その一方、700兆円とも言われる国債の利払費が増加することで、国の財政が悪化したり、金融機関の貸出金利が上がるなどの副作用も懸念される。さらに、このことにより、増税や借入金の返済額の増加、さらには回復してきたといわれる景気に水を差すなど、私たちの生活に悪影響を与えかねない。

産業機械

金属の素材を切ったり削ったりして形を作る工作機械、腕が動いて溶接や塗装を行うロボットに代表される産業用ロボット、樹脂のつぶ(ペレット)をどろどろに溶かし、一気に型に押し込んでプラスチック部品を作る射出成型機や半導体製造装置など、工場の製造過程で素材・原料の加工に使う機械類の総称。日本は、工作機械、産業用ロボットの生産で長年世界一を誇る。今まではドイツなどの欧州各国が競争相手であったが、最近は韓国、台湾や中国などの企業でも産業機械の生産を始めており、技術の高いわが国を追いかけ始めている。そのため、日本では組立型の産業ロボットなども作られている。

介護保険制度改正

高齢者に介護サービスを提供する介護保険の財源は、現在 40 歳以上の国民が負担する保険料と、国および自治体の公費が半分ずつを占める。このうち 65 歳以上の高齢者が支払う保険料は市町村ごとに決まり、原則 3 年に 1 度改定される。現在の介護保険法では、施行 5 年後にあたる 2005 年度に制度全般を見直すように定めており、現在、厚生労働相の諮問機関である社会保障審議会で検討中で、今年の秋をメドに厚生労働省は見直し案をまとめる予定。今のところ、保険料納付対象者の拡大、介護保険対象の見直しによる給付の抑制や利用者の自己負担の拡大などが検討課題となっている。

Opinion & Announcement

青年部総会が行われ、TEN-UP ACTION 2004 宣言が採択された。具体的な内容は記事を参照していただきたい。TEN-UP 運動は、自らが目標を定める意味を持つものであるが、やはり具体的な目標数字があつてこそ、努力のしがいがある。今年は TEN-UP ACTION 2003 表彰会(青年部員を 10% 以上純増できた会)が 3 会と、昨年より少なくなった。しかし、中には 2 年続けて表彰された会もあり、心強い限りである。今年度も、総会でその 3 会の活動レポートを配布し、事務連絡により、各事務局にお届けした。さらに、青年部学校では分科会を行い、活発な討論が行われた(記事参照)。ぜひ、これらのレポートを参考にして、青年部活動に役立てていただきたい。同時に、「青年部に該当する人が少ない」あるいは「青年部活動にまで手が回らない」という課題を克服し、各会が特色ある活動で、活性化をはかってほしい。

全青色総会が終了し、平成 16 年度事業活動基本方針が承認された。本年度の税制改正運動は、事業主報酬制度と事業承継税制の実現を目指す。個人企業経営者の勤労性を正當に評価した事業主報酬制度の導入、そして個人事業の承継ができるように、事業用資産を非課税とすることをはじめ、事業承継税制の確立を求めるものである。われわれ青年部員が活動できる分野でもあるので、ぜひ青年部としても税制改正運動に積極的に取り組んでほしい。他方、平成 17 年分より、青色申告特別控除額が正規の簿記の原則で記帳すれば 65 万円に、それ以外の場合は 10 万円になる。また、平成 17 年分から消費税の課税事業者となる方も多い。青年部員には、ぜひブルーリターン A など、記帳の O A 化を推進して、正規の簿記の原則に沿った、さらには消費税に対応した記帳を行ってほしい。また、他の会員へのこれらの指導・相談もお願いしたい。

通常代議員総会 開催される



全青色青年部は5月22日、東京都千代田区永田町の全国町村会館において、平成16年度通常代議員総会を開催した。

「チャレンジ！TEN-UP ACTION 2004！」を合言葉に、本年度の事業活動基本方針等を決定した。青年部員、青色申告会員の増強を図るTEN-UP ACTION 2004を宣言し、青年部活動の一層の発展を誓った。平成16年度の事業活動基本方針は次のとおり。

政府は、国と地方をあわせ700兆円を超える赤字財政の見直しのため、消費税の見直しや所得税の増税等、財政再建に乗り出している。また、市町村合併を推進し、国と地方の「三位一体」といわれる財源配分の見直しが検討され、さらには道州制の議論が始まる等、国のあり方が大きく変化しはじめている。

次代を担うわれわれ青年部は、これからの日本のあるべき姿について真剣に討議し、提言していかなければならない。厳しい時代を乗り切り、新しい時代を切り拓くために、われわれ青年は力強く歩み出さねばならない。青年部は自己研鑽の理念のもと、積極的に活動を推進する。

本年は、TEN-UP ACTION キャンペーンの四年目として、今までを超える成果を得るよう、部員増

強運動に傾注する。また、税制改正運動、パソコン用会計ソフト「ブルーリターンA」の活用、消費税法改正及び青色申告特別控除65万円への対応を重点目標として、活動を展開する。

チャレンジ！TEN-UP ACTION 2004！

統一的な重要課題として次のテーマに取り組む。

- ・活動と組織の充実強化
- (1) TEN-UP ACTION 2004の推進、青年部活動の充実
- (2) 青年部未結成地区の解消
- ・税制政策活動の推進
- (1) 個人事業主の勤労性を正当に評価した事業主報酬の支払いを認めた税制、事業用資産を非課税とする事業承継税制の実現
- (2) 公的な医療・年金制度の抜本改革
- ・個人事業者のOA化の推進と消費税法改正及び青色申告特別控除65万円への対応
- (1) パソコン用会計ソフト「ブルーリターンA」の普及推進への取り組み
- (2) 消費税法改正への対応
- (3) 青色申告特別控除65万円への対応

1. 全青色青年部の活動と役割

- (1) 部員増強運動に努め、県連と協調し、地区会青年部を支援する。
- (2) 税制政策の研究に努め、本会の税制改正運動を協力支援する。
- (3) 全青色青年部の円滑な運営について本会、各県連に理解を求める。

2. 県連青年部およびブロック青年部の活動と役割

- (1) 県連青年部ならびにブロック青年部の研修会を開催し、県下ならびにブロック内の情報交換と交流の場を提供し、青年部運営の充実強化、部員増強に努める。
- (2) 県内およびブロック内の青年部未結成地区および県に青年部の創設を働きかける。
- (3) パソコン用会計ソフト「ブルーリターンA」、消費税法の改正に伴う対応、青色申告特別控除65万円への対応等の研修を企画する。

3. 地区会青年部の活動と役割

- (1) 地区会青年部の研修会を開催し、部員相互の情報交換・異業種交流の場を提供し、青年部活動に対する意識を高めるとともに部員増強を図る。
- (2) 青年部の立場から、本会の運営に積極的に参画し協力支援する。
- (3) パソコン用会計ソフト「ブルーリターンA」、消費税法の改正に伴う対応、青色申告特別控除 65 万円への対応等の研修を推進する。

次に、TEN-UP ACTION 2004 宣言を行った。

長期の景気低迷、会員の高齢化による廃業の増加、新規入会の減少により青色申告会員が減少していること、また、会員事業の後継者難、新規開業の減少、青年部員の高齢化により青年部員が減少している現状は、青色申告会ならびに青年部の組織維持に危機的な状況です。

青年部は平成16年度の全国統一キャンペーンとして、会員増強運動、青年部員増強に取り組みます。

青年部員数の 10%UP
青色申告会員数の 10%UP
青年部設立数の 10%UP

青年部員数の 10%UP
青年部員を10%、増やします。
青色申告会員数の 10%UP
青年部員が新規入会者を積極的に勧誘します。
青年部設立数の 10%UP
青年部を10%、増やします。

TEN-UP ACTION 2004 表彰式



総会議事終了後、TEN-UP ACTION 2003 表彰

式が行われ、青年部員数純増 10%以上の目標を達成した3会が表彰された。

表彰会及び活動報告は、下記のとおり。

1. (社)江東西青色申告会

< 部員増強活動の目標 >

一つ一つの事業に興味あるものを。

青年部の活動は青年部のみならず、一般会員さんも対象に

部員の業種・活動可能な時間帯を考慮しながら、役割分担を適材適所に。そして、サポート役も。

何かをやって、形あるものをつくろうよ。

< 具体的な部員増強活動の内容 >

パソコン教室(19回)、会計ソフト講習会(6回)、複式簿記講習会(18回)、ソフトボール大会、バーベキューを楽しむ会、桜吹雪の遊宴、プロ野球を見よう、アクティブネット通信(青年部の広報紙)の発行(1回/月)、その他青年部を主体とした活動

< 上記活動内容において良かった点 >

平成14年度まで青年部による一般会員さんを対象に実施していた講習会が平成15年度から親会からの委託事業になり、より活動しやすくなった。

各種講習会が一般会員さんに喜ばれ、参加者の中から青年部への入部が増え、各種講習会のサポーターになってくれる。

2. (社)鎌倉青色申告会

< 部員増強活動の目標 >

部員数50名とする。

青年部の事業内容のPRに努める。

役員1人が1人を入部勧奨する。

< 具体的な部員増強活動の内容 >

・本会でいう源泉所得税申告指導(7月・12月)、記帳確認(10月1日~30日)で若い事業主・専従者等に加入促進を行った。

・部員がそれぞれの仲間に参加促進を行った。

・当青色申告会のホームページ及び会報「青色だより」に青年部のページを作成し活動を紹介した。

< 上記活動内容において良かった点 >

・青年部の年間事業活動のパンフレットを作成し、本部・相談所で配布した。

・記帳確認という重点時期を決めた。

3. (社)大和青色申告会

< 部員増強活動の目標 >

4月末までに部員30人を目標

< 具体的な部員増強活動の内容 >

・部長・地元の役員・事務局職員で、部員対象者の自宅(店)を訪問し、勧奨を行った。

・上記の勧奨の一週間後に、見込みのありそうな方の自宅(店)を再度訪問し、勧奨を行った。

< 上記活動内容において良かった点 >

青色申告会に入会しているかたがたの潜在的な気持ちは一緒であることが分かった。あとは時間があるかないかの問題である。

青年部学校で分科会

総会終了後、青年部学校を開催した。本年は分科会形式で行った。テーマを2つ挙げて参加者にあらかじめ選んでいただき、そのテーマに沿って討論会を60分程度行い、その後全体発表を30分程度行い、最後に部長総括で終了した。以下はその骨子である(文責在記者)。

今回の分科会のテーマは、1つが『青年部活動を活発にするにはどうしたらいいか?』、もう1つが『指導・相談、税制改正運動に青年部としてどう参画していくか?』である。これらのテーマについて、1グループ6名で、前者のテーマで6グループ、後者のテーマで3グループに分かれて討論を行った。



討論終了後、各グループのリーダーが3人ずつ集まり、それぞれ討論の内容をまとめ、全体発表を行った。

まず、『青年部活動を活発にするにはどうしたらいいか?』というテーマで、3グループを一つとして、2組が発表した。以下は、その要約である。

A. テーマ『青年部活動を活発にするにはどうしたらいいか?』

グループ1発表者：埼玉県連青年部 西村部長
(A-2 リーダー)

皆さん非常に活発に活動されていることが分かった。また、本日の討論を通じていい意見交換ができたと思う。

まず、A-1 グループ(リーダー：(社)東青連青年部 高木部長)では、青年部同様、親会にも定年制をシステムとして取り入れたらどうか、という意見が出た。すでに取り入れているところもあるが、これを取り入れることが、青色申告会全体の活性化に繋がると思う。

さらに、他団体との交流・部員一人一人の声かけ・親会を通じての勧誘が必要ではないかという意見があった。

次に、A-3 グループ(リーダー：北海道連青年部 森本部長)では、青年部の活性化の前に、各会・各県連の親会の考え方が、青年部のありかたや活動等に影響を与えるのではないかと、という意見が出た。また、お金の面では、会費をとらず、受益者負担で、参加するイベント毎に参加費を取るのがいいのではないかと、という意見も出た。事業を行うには、日時・曜日を考える必要がある。

最後に、A-2 グループでは、青年部の高齢化がよく言われているが、他方、青年部員が指導員の役割を果たしているため、指導員的人材の育成を急ぐ必要がある。さらに、パソコンの研修会等の事業を使った勧誘も必要ではないか。定年制に対しては、これが活性化に繋がると思うといった、肯定的な意見が多かった。

共通している問題点は、青年部卒業後のポストがなくなることであり、青色申告会運動への参画に支障が出ることである。また、青年部長に役職を持たせることで、青色申告会活動への参画意識を持たせる必要があると思う。

まとめとしては、まずリーダーシップを各役員が発揮することが必要である。さらに、各部員が声かけ、しかも負担感のない声かけが必要である。そして何より「やるっきゃない」と思う。

グループ2の発表は、それぞれのグループリーダーが行った。

A-4 グループ(リーダー：茂原会青年部(千葉県) 御簾納部長)では、部員増強を行うための手段として講習会などを行うことが大切だが、部員は自分の実になるものなら参加する。だから、そういうニーズを上手にとりあげて講習会を行う必要がある。またその後の懇談会も、講習会と同じくらい大切であると思う。青年部活動では、青年部員以外の会員にも参加してもらいたいのではないかと、そして、青年部が親会の活動に積極的に参加し、親会から青年部をアピールしてもらいたい必要がある。また、部員には男性だけでなく、女性にも参加してもらいたいことも大切では。これは、事務局にもいえると思う。これが青年部活動への出席率を高めると思う。

A-5 グループ(リーダー：(社)江東西会青年部(東京都) 橋本副部長)では、4つの意見が出た。第一に、青年部員も親会の会員である以上、親会の行事に参加したいが、親会の行事は平日の昼間に行われ

ることが多く、なかなか参加しにくい。第二に、様々な業種の方がおられるので、業種に合わせ、参加しやすい時間を設けないといけない。第三に、親会の事業には親子で参加することが多い。だから参加しづらい。そこで、青年部主催で事業を行って一般の方・親会会員にも参加してもらえば、入会や入部の勧奨に繋がりやすいのではないかと。第四に、費用負担の問題が出た。これはケースバイケースで対応し、お金をとって「損した」と思われぬことが大切である。さらに、青年部員全員が 65 万円を取れるよう、努力をしている部もある。とにかく、楽しく、次も参加したいと思われぬ青年部を目指したい。

A-6 グループ(リーダー:熱海会青年部(静岡県)小山相談役)では、現在の青年部の問題点として、「青色申告会のイメージが良くない」「何も得られない」「メンバーが変わらない」「若いメンバーが集団活動を好まない」などの点が挙げられる。このような問題に対する解決策としては、「参加しやすい」「メリットのある」「集まりやすい方向性を探す」、そして、何かの機会に声をかけたり、一本釣りをするなどして、青年部員を増やすなどの意見が出た。例えば、熱海会ではあまり部員を増やさないが、定年を 45 歳に定めている。そして行事毎に参加費を取って活動している。同時に、親会と話合って親会のポストである各種委員会の委員長職を青年部員がつとめ、頑張っている。だから、皆さんにも頑張ってもらいたい。

B. テーマ「指導・相談、税制改正運動に青年部としてどう参画していくか？」

グループ発表者：三重県連青年部 富田部長

Bグループでは、「指導・相談、税制改正運動に青年部としてどう参画していくか？」というテーマで話し合ったが、テーマの範囲が広すぎて、まとめるのが大変だった。まず、青年部員が高齢化している、日々仕事しながら活動しているため指導員として活動するのは厳しいのではないかと、という問題点が挙がった。また、今年から名古屋国税局で試験的に電子申告が始まったが、まだブルーリターンAと連動していない。これがいつ頃連動されるのか、全青色事務局に聞きたい。さらに、青年部員がやらなければならない、という意識が希薄である。どうしても親会任せ・事務局任せになっているのが現状である。また、OA化の推進という点でも、青年部員が分かっていなくていいのか、などの問題点が出た。解決策は具体的には出なかったが、指導・相談活動では、青年部としては複式簿記の知識を増やし、これを指導していくことが大切だと思われる。また、コミュニケーションを深めることを最重要にしているが、これを進めながら、私たちが今後どのような活動をすべきかを、部員一人一人が

意識していくことが重要だと思われる。それが具体的な解決策を見つけるのに繋がると思われる。

「事務局よりブルーリターンAに関する補足」

今年の 2 月から電子申告が始まっているが、確定申告期間中は名古屋国税局管内だけで試験的に行われたため、今回バージョンアップされたブルーリターンAでは、電子申告への対応はされていない。この 6 月からは全国規模で電子申告が行われることになっているので、本年末のバージョンアップ時に、電子申告に対応した良いソフトを作りたい、と考えている。

「下田部長総括」

総括の必要がないくらい、様々な意見が活発に交わされ、皆さん、多くの事を得ていただけたように思います。今回、3 つのグループの代表の方々に発表していただきましたが、具体的な意見を聞くことで、皆さんの心により響いたことと思います。

今日の分科会の趣旨の1つとして、より活性化している会が他の会を刺激して欲しい、というものがありませんでしたが、今日、参加の会は非常に活発に活動していることがわかりました。

先ほど、商店街の空洞化の問題を発表されていた方がおられましたが、青色申告会の会員さんは、様々な職業の方がおられ、商工会議所など他団体においてもお会いする機会があります。これも会員の広がりだと思います。商工会議所など他の会合での出会いも大切にして欲しいと思います。これは、自らの商売を広げる上でも重要です。

さて全青色では、税制政策・組織・事業の3つの委員会に加えて社会保障政策の委員会が今年度からできました。現在、税制政策委員会に青年部の代表を送っていますが、社会保障政策にも青年部として参加を求めています。税制改正運動では、事業と家計を分ける青色申告者に対し事業主報酬を認めた制度の創設を求める活動は、青年部員にとって非常に大切です。事業承継税制の確立など、我々にとって重要な問題もありますので、皆さんも地元の税制改正運動に積極的に参加してください。青色申告会の活動は、自分たちのために自分たちが行っているのだから、ぜひ多くの方に参加していただきたい。そして青色申告会の存在感を示すには、同じ思いで活動している人の数が増えることが一番だと思います。よろしくお願いします。

発表者の方が「義理と人情と青年部、楽しくなければ人は集まらない」とおっしゃっていたように思います。今日はこれを総括として終了させていただきたいと思えます。皆さんには、この分科会での討論内容を活かして、実際に地元で活躍してください。



事務局 373 8521 埼玉県川口市上青木
3-12-18 埼玉県産業技術総合センター7階
TEL.048-261-8221 FAX.048-261-8222

青年部長 木滝 和宗
事務局担当 決まった担当者はなし
(誰でも分かるようにしています)

発足:平成 14 年 部員:13 名

予算:助成金 20 万円

本会ホームページ

<http://www11.plala.or.jp/aiirosinkoku/>

《現役員》

部長 木滝 和宗(花卉生産、パソコン)
副部長 岸部 一貴(印刷業)
桑原 千加良(パソコン教室)
金杉 英孝(不動産賃貸)
渡辺 満夫(ステンレス材料販売・加工)

《地元概況》

川口市は埼玉県の南端に位置する県内有数の都市です。荒川を隔てて東京都に接し、江戸時代から鋳物や植木などの産業が発達しております。その後、住宅都市化が進みました。今日では、人口 48 万人を超えるまちになりました。

また、映画『キューポラのある街』の舞台としても有名です。

《青年部の変遷》

昭和 55 年 10 月から活動しておりました青年部が、平成 13 年度に休部となり、あらたな部員を募集し、平成 14 年 10 月 21 日、新生青年部として部員 7 名から再スタートしました。

平成 16 年 5 月末現在 13 名に増加しています。

《現青年部の活動》

毎月第 2 月曜日を定例会とし、年数回の講師を招いての講師例会を開催し、勉強しております。今までの講師陣は、弁護士、税理士、弁理士、行政書士、経営コンサルタントなどで、今後の経営にも相談できるような立場の人にお願ひし、ネットワークを広げております。忘年会にも講師の方へは出席のお願ひをし、常に接点を持つようにしております。部員が皆パソコンができることも、わが川口青色申告会青年部の特色であり、連絡事項等は E-Mail で連絡を取り合っています。また、青色申告会会員の方々へのパソコン相談も開催し、ブルーリターン A の普及活動などのお手伝いをしています。青色申告会のホームページも立ち上げましたので、ぜひご覧ください。URL は、<http://www11.plala.or.jp/aiirosinkoku/> です。

今後は、ホームページの指導、普及活動も展開していきたいと考えております。

《今後の抱負・課題》

青色申告会自体は税務に関する団体ですが、税務に関すること以外にも魅力を出すため、青年部としては、経営全般の話し合いを持てるような講師例会でのテーマを設けて勉強しております。また、IT パソコン関連の事業を展開しながら青年部員の募集も兼ね、魅力ある活動を模索しながら展開しております。

特に部員獲得には、事務局の力が多大であり、新規入会者との接点を持つ事務局に青年部への加入勧奨をしていただいております。そして部員登録をいただければ青年部活動の魅力でどんどん活動に引き込んでゆくようにしていくことが、青年部役員の仕事であると自覚して望んでいます。

経営の一線で働く青年部員は、昼間の会議等にはなかなか出られませんが、それでも夜間に開催している青年部の定例会での勉強や情報交換などと、その後に行われる、お酒を交わしながらの懇親会がやはり重要なウエイトを占めていると思います。これらを通じて、青年部員間の交流を図り、さらには部員増強につなげたいと思います。

まだまだ歩みだしたばかりの新生青年部ですが、魅力ある活動を常に考えながら更なるステップアップを図っていきたくて考えております。

他の青年部から、活動などについて、いろいろとお教えいただきたいと思いますので、そのときはよろしくお願ひします。

最後に、私たちの夢は大きく個人事業者の地域総合経済団体ですかね(笑)。